



井藤文男さん

1945年世羅町生まれ。58歳で会社を退職後、農業のかたわら「ヒョウモンモドキ保護の会」会長、ダルマガエル・ギフチョウ・ホタルの保護・育成活動を行う「伊尾・小谷たえクラブ」会長、2018年からは農事組合法人「ダルマガエルの里」代表理事を務める。なかでもダルマガエルは、長きにわたって生態を観察・保護し続けている。

「世羅の小学校の児童は、ダルマガエルについて学んでいる」「カエルの先生は、白い髪を生やした人らしい。」「ダルマガエルって？カエルの先生って？」

：分からないことだらけだ。

16年前に引越してきたカエル

八田原ダム近くにある世羅町小谷地区は、川と雑木林に囲まれたのどかな地。おおつ、白髪&白ひげの男性が、田んぼを覗き込んでいるではないか！もしかして……そう、この人こそがダルマガエルの育成に携わっている井藤文男さん。

「この田は、ダルマガエルのために無農薬。農薬を散布しなくても、カエルが虫を捕ってくれるんです。まさにカエルと一緒に米作りですわ」と教えてくれた。

ダルマガエルは、トノサマガエルとよく似ているが、背中の中央線がないのが特徴で、ずんぐりむつくりの愛らしい在来種のカエルだ。

2003年、福山市神辺町の大型商業施設の土地造成に伴い、ダルマガエルの生息地が消滅することになり、翌年に新たな生息地として小谷地区にダルマガエルが放流された。小谷地区は、八田原ダム建設の際に環境調査がされていたこと、井藤さんがカエルについて詳しく知っていたこともあって、

2007年までに約1万1000個体が放流された。井藤さんは、鳴き声を確認したり、捕獲して個体数や頭胴長を計測したりして、放流後のダルマガエルの生息状況の調査に協力。非常に珍しいとされる産卵シーンの撮影にも成功している。鳴き声や飛び込み方でダルマガエルと分かるなんて、「すごい」の一言！

カエル愛から生まれたお米

ダルマガエルを放流した田んぼでは、農薬を使用せず、途中で水を抜く「中干し」もしない。「ダルマガエル米」と名付けた米。あきらまんは無農薬で栽培するための収穫量は少ないが、手間暇かけて作られていて、全国にファンがいる。また「カエルと一緒に農業なんておもしろい」と、移住してくる人も現れた。カエル写真家と田んぼではあったことがきっかけで、写真展を開催する話も計画中だ。「せっかくカエルと縁があったのだから、やれる限り頑張りたいね」と豪快に笑う。



子どもたちに伝えたいこと

井藤さんは、子どもの頃からキャンプや魚釣り、山歩きなどが好きだったという。退職後はヒョウモンモドキやギフチョウ、ホタル、ダルマガエルなど、地域に生息する生き物を保護・育成する活動に尽力するとともに、せらひがし小学校でもその生態を伝えている。

「将来を担う子どもたちの心に、『小谷にはダルマガエルという、よそにはない宝がある』と伝え、ふるさとを誇らしく思ってもらいたいよね。井藤さんの思いは十分伝わっているようだ。子どもたちから贈られた冊子には、ダルマガエルと出会った感想や、井藤さんに対する感謝の言葉がたくさん綴られている。

「ダルマガエルは楽しみであり、農業のよきパートナー。これからも子どもたちに、地域愛、ダルマガエル愛を伝える活動を続けていく。」



黒い斑点がまばらなのもダルマガエルの特徴

「ダルマガエル米」は、毎年10月から購入できる。ダルマガエルが生息する田んぼの景色は井藤さんが名刺のデザインにするほどお気に入り



愛してるぜ!
must have!



児童の作った冊子

「みんなから井藤先生と呼ばれるんだよ。勉強会や観察会を行っているせらひがし小学校の児童から寄せられる冊子は宝物

「ダルマガエル」という宝を知ってもらい子どもたちにふるさとを誇らしく思ってもらいたいねえ。

ITEM DATA

ダルマガエル米の購入は
☎ 0847-22-4400
(道の駅 世羅)

📍 世羅郡世羅町大字川尻字大柳 2402-1
🕒 8:00~18:00



ダルマガエルと一緒に育った、井藤さん自慢の米。購入は「道の駅 世羅」にて10月から販売。数量限定ゆえお早目に